

# 医学部における研究マインド醸成のための取組例

参考資料3  
今後の医学教育の在り方に関する  
検討会（第2回）  
R5.6.23

## ◆ 千葉大学医学部学生に対する研究指導の事例

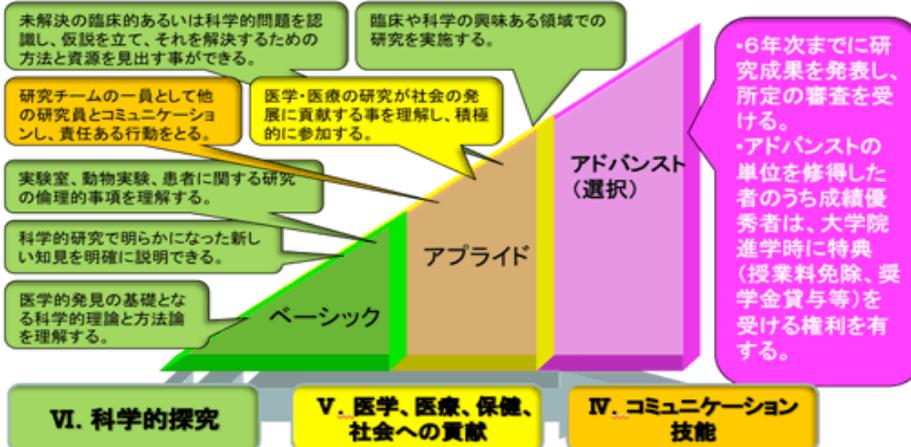


※千葉大学大学院医学研究院・医学部公表資料より医学教育課において一部改変

### スカラーシッププログラム

(平成20年度～)

一般目標：**基礎、臨床、社会医学**領域での研究の意義を理解し、科学的情報の評価、批判的思考、新しい情報を生み出すための論理的思考と研究計画立案を倫理原則に従って、行う事が出来る。



### アスパイア・プロジェクト

(平成31年度～)



(発表の様子)

第15回 ちば Basic & Clinical Research Conference

日時：令和4年2月3日(木) 13:00～17:10  
会場：千葉大学医学部のほな記念講堂  
主催：ちばBasic & Clinical Research Conference事務局 3年 神ノ日 紗瑛

13:00 開会の辞  
千葉大学大学院医学研究院 分子ウイルス学 教授 白澤 浩 先生  
ちばBasic & Clinical Research Conference 事務局 3年 神ノ日 紗瑛

13:10 学生発表  
発表 千葉大学医学部 4年 上野 達夫 先生  
千葉大学医学部 3年 丹後 雄統 先生  
「線維芽細胞由来液性因子によるシンドビスウイルスの細胞感染抑制」  
発表 医学部 5年 先田部 沙羅 先生  
「プロテオミクスによるMENAが制御するフェロニシンの分子基盤の探求」  
発表 医学部 5年 清水 真 先生  
「4種類のFoxOアイソフォームの糖代謝における役割の解明」  
発表 医学部 5年 浅野 陽彰 先生  
「急性骨髄性白血病におけるヒストンメチル化酵素を介した新規転写制御機構の解明」  
発表 医学部 4年 岡崎 創太 先生  
「Nex欠損マウスにおける腸管好細胞機能解明—好酸球欠損マウスの作製と検証—」  
発表 医学部 3年 西本 晶大 先生

14:30 講座紹介  
発表 千葉大学大学院医学研究院 衛生生命学 教授 横野 雅彦 先生  
「小児科学：子どもの笑顔を守る総合医学」  
発表 千葉大学大学院医学研究院 小児病態学 教授 濱田 洋通 先生  
「ゲノムの多様性とヒトの疾患」  
発表 千葉大学大学院医学研究院 公衆衛生学 教授 深内 善広 先生

15:20 講評  
千葉大学大学院医学研究院 太郎一臨牀免疫学 教授 松原 久裕 先生

15:30 表彰  
千葉大学大学院医学研究院 アレルギー—臨床免疫学 教授 中島 陽史 先生  
のほな同窓会長 吉原 愛雄 先生  
千葉大学大学院医学研究院 松原 久裕 先生

16:00 特別講演  
千葉大学前学長 徳久 剛史 先生  
「新型コロナウイルスは人類に何を語るか?—人類の歴史と免疫学の観点から—」  
発表 国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 理事長 平野 碩大 先生

17:00 閉会の辞  
千葉大学大学院医学研究院 薬理学 教授 安西 尚志 先生

世話人(敬称略)  
徳久 剛史 中島 陽史 中山 康史 高橋 和久 白澤 浩  
安西 尚志 中島 陽史 水村 元子 大島 晴司 坂本 明義

協賛  
千葉大学イオノーム・ゲノム研究センター 協賛：坂本明義  
電話：043-293-7921 E-mail: sakamoto@faculty.chiba-u.jp  
学生事務局：坂本晶大、先田部沙羅、神ノ日紗瑛、上野達夫  
主催：ちばBasic & Clinical Research Conference事務局、千葉医学部、のほな同窓会  
共催：ちばBasic & Clinical Research Conference事務局、千葉医学部、のほな同窓会

### 臨床実習期間に行われる、個人毎の主体的活動

**必修で3年、選択で6年の長期研究者養成プログラム**

- 研究室配属は1年次から開始され、**全員が必修で3年間**基礎系や臨床系の研究室で学ぶ。さらに研究を継続させたい学生はアドバンスト・コースを選択することにより**4年次以降も研究を続けることができる。**
- 査読のある学会・研究会・論文発表を行った学生や、ちばBasic & Clinical Research Conference、研究医養成コンソーシアム等において研究発表を行った学生に対しては「**千葉大学医学部スカラーシップ賞**」を用意しているほか、アドバンストの単位取得者のうち成績優秀者には、**大学院進学時の授業料減免などの権利**が付与される。

- カリキュラム上、臨床実習が行われている期間において、**個人毎に設定された 8 週の間**に行う。この期間中は**臨床実習には参加しない**為、学生は皆、比較的自由に時間を使う事ができる。この期間中に、自らのキャリア形成や識能向上を目的とした活動計画を自由に立案し、実施・振り返りを行うことで、**医学・医療に携わる者としてのプロフェッショナリズム等を向上させる**ことができる。
- 内容は基礎研究を行った者、診療技能を高める活動をする者、離島を含め多様な医療現場に参加する者など多岐に渡っている。年に数回「**アスパイア・プロジェクト報告会**」が開催され、医学部の教員による採点のもとで**最優秀賞・優秀賞の表彰**がある。最優秀賞に選ばれた学生には、さらに千葉医学会から奨励賞が授与され、大学院生らにまじって発表をする機会が与えられる。**研究成果が認められる機会**があることで、**学生たちのモチベーション向上**につながっている。

**基礎、臨床、社会医学領域での研究の意義を理解し、新しい情報を生み出すために論理的・批判的な思考を養う。**

# 医学部における研究マインド醸成のための取組例

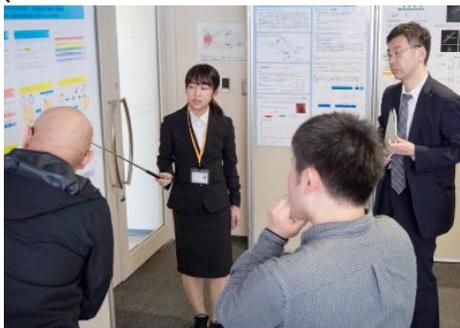
## ◆ 名古屋大学医学部学生に対する研究指導の事例



※名古屋大学医学部公表資料より医学教育課において一部改変

### 基礎医学セミナー（正課内）

（平成3年度～）



（ポスター発表の様子）



（口頭発表の様子）

### 3年生後期に半年間の長期研究室配属

- 基礎医学の講義・実習が一通り終わった**3年生後期の半年間**は、講義室を完全に離れ、最前線の研究を進めている基礎講座（社会医学系講座・環境医学研究所各部門・総合保健体育科学センターを含む）に身を置いて、生の研究生活を体験する。
- 各研究室に2-4名ずつが配属され、**指導教員の直接指導の下で実験・研究を実践しながら、科学的思考法を体得する。**
- セミナー終了後、**口頭またはポスター形式による成果の発表が義務**付けられており、優秀者には表彰するとともに、海外の学会等へ派遣される機会が与えられる。

### 名古屋大学医学部学生研究会（正課外）

（平成23年度～）



（学生研究会HP）



（ロボツアー）

### 学生の自発的な研究活動を最大限サポート

- 標準のカリキュラムに加えて、**1年次から自発的に研究室で研究を行うことができるよう、名古屋大学医学部では学生研究会を設置**し、研究活動を行っている学生を支援している。以下の2つのコースからなる。

#### ベーシックコース

- 研究に興味があるがまだ研究を始めていない学生を対象に、**研究室見学の斡旋**（ロボツアー）、**医学部での研究についての紹介**（メディカルサイエンスカフェ）、**プレゼンテーションや論文の読み方などの指導**（ベーシックミーティング）を行っている。

#### アドバンスコース

- 研究室に所属して、研究活動を行っている学生を対象に実施。
- 進捗報告会や全国学生リトリートへの参加**により、研究発表や質疑応答のトレーニングを積むことができる。全国学生リトリートでは、全国の医学部生と合宿を行い、学生同士で切磋琢磨することで、知見を広げリサーチマインドを涵養する。
- 学会参加や海外派遣などについて費用のサポート**を受けられる。

豊かな想像力を発揮し、未知の領域に常に挑戦しながら、革新的な医学・医療を創造する研究者になるための基本的な姿勢を身につける

名古屋大学医学部医学科 ディプロマ・ポリシーより